

日本大学歯学部創設100周年記念式典



日本大学歯学部創設100周年記念式典での挨拶

歯学部長 前野 正夫

本日ここに、学校法人日本大学理事長 田中英壽先生、日本大学学長 大塚吉兵衛先生、日本私立歯科大学協会会長 東京歯科大学学長 井出吉信先生をはじめ、日本大学関係の役教職員、並びに全国から多数のご来賓のご臨席を賜り、日本大学歯学部創設100周年記念式典を盛大に挙行できますことは、誠に喜ばしい限りでございます。お忙しい折にも関わらず、この式典にご臨席いただきましたご来賓の方々、ご出席いただきました全ての皆様に、日本大学歯学部を代表して、厚く御礼を申し上げます。

日本大学歯学部は、今から100年前の大正5年4月15日、佐藤運雄博士によって、日本橋の東京医会本部（当時の東京都医師会館）の一角に、東洋歯科医学校として創設されました。佐藤博士は、東京歯科大学の前身である高山歯科医学院を卒業後、アメリカの歯科大学と医科大学に進学され、歯学士と医学士の学位、そして、アメリカでの医術開業の資格を取得されました。帰国された後は、東京帝国大学医科大学講師、東京歯科医学専門学校教授等を務められ、佐藤博士が36歳のとき、東洋歯科医学校を開校されました。

開校当時の大正5年頃の我が国の歯科医学は、技術偏重であり、一般医学に比べて学問的に遅れていました。そのような状況の中で、佐藤博士は、「医歯一元論」を東洋歯科医学校の教育理念として掲げました。（次ページに続く）

(前頁より続く)



佐藤運雄博士

すなわち、歯学を口腔や歯だけに留めず「医学的基礎に立脚した歯科技術の向上、人格の教化、学生相互による知識の授受、切磋琢磨」を創設時の建学の主旨とし、「医歯一元論」に沿った有能な歯科医師を育成して地位向上を図りたい、という志から東洋歯科医学校を創設しました。そして、この

建学の主旨は、現在の日本大学歯学部教育方針の中に、しっかりと根付いております。

さて、我が国に歯学教育を担う学校が誕生し始めたのは、明治と大正の時代です。しかし、当時の歯学教育を担う学校の全ては私立であり、国公立は皆無でありました。明治政府の富国強兵策では、歯学教育がそれほど重要視されていなかったためと考えられます。歯学教育を担う私立の学校は、明治時代に3校、大正時代に2校開校され、東洋歯科医学校は、我が国では5番目に古い歯学教育機関として誕生しました。



大正期 駿河台校舎

東洋歯科医学校は、大正8年、日本橋から現在の神田駿河台の地に移転し、翌大正9年、4年制の東洋歯科医学専門学校に昇格しました。さらに、大正10年、東洋歯科医学専門学校が日本大学に合併され、翌大正11年には、日本大学専門部に歯科が設置されました。この日本大学への合併には、当時の日本大学理事・法文学部長で、後に第三代日本大学総長に就任された山岡萬之助先生のお力添えがあったと、記録に残っております。

大正15年には、夜間で3年制の日本大学歯科医学校が設置され、戦後、教育制度が改正された昭和20年に至るまでの17期に亘って卒業生を輩出しました。その後、昭和22年に、予科3年を含めた7年制の旧制の日本大学歯学部が設置され、昭和27年には、3年から2年に短縮された予科を含め、6年制の新制の日本大学歯学部歯学科が設置されまし



昭和期 旧校舎(左)・旧歯科病院

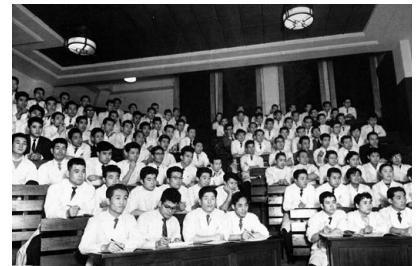


大正期 治療実習

た。一方、同じ昭和27年、29回目の卒業生を輩出した、日本大学専門部歯科が廃止されました。

昭和30年には、予科廃止に伴い進学過程が設置され、現在

とほぼ同じかたちの歯学部歯学科となり、翌昭和31年には私立歯科大学の中では最初の大学院となる、日本大学大学院歯学研究科が設置され、現在に至っております。さらに、昭和51年には、日本大学歯学部総合歯学研究科が設置され、本学部における研究拠点の一つとなっています。



昭和30年代 臨床講義

本学部では、創設100周年の記念事業として、新しい歯科病院と校舎の建設を進めています。具体的には、旧駿河台日本大学病院跡地に「新歯科病院」棟を、そして、現歯科病院解体後の跡地には、大学院校舎機能と学部教育全般を担う「新校舎」棟を建設致します。「新歯科病院」棟は平成30年、「新校舎」棟は平成33年に完成予定で、「新校舎」棟完成時には、両棟は一体化した建物になります。

本学部を卒業した同窓生の数は、本年3月末で19,325名であり、この数は、全国の歯科医師数の一割以上を占めています。その中には、日本歯科医師会、日本歯科医学会、日本学校歯科医会、および都道府県の歯科医師会等の会長職を歴任し、我が国の歯科界の発展に大きく貢献された同窓生が多数含まれております。もちろん、現在その役職に就いて、尽力されている同窓生もいらっしゃいます。

日本大学歯学部は、今後も引き続き、日本大学の教育理念「自主創造」と、佐藤運雄博士が建学時に唱えられた教育理念「医歯一元論」に基づき、幅広い教養と総合的な判断力の上に立ち、問題解決能力を備えた、人間性豊かな人格を有する歯科医師を育成するために、教職員一丸となって、努力して参ります。皆様には、今後も変わることなく、本学部の発展のために、ご支援、ご指導賜りますことを、切にお願い申し上げます。

結びになりますが、本日この式典にご臨席賜りましたご来賓の方々、ご出席いただきました全ての皆様のご健勝とご活躍、そして、関係機関の今後益々のご繁栄をご祈念申し上げます。

(平成28年5月15日)

日本大学歯学部 創設100周年 記念式典・記念祝賀会 開催

平成28年5月15日(日)、田中英壽理事長、大塚吉兵衛学長の御臨席のもと、日本私立歯科大学協会会長 井出吉信様(現東京歯科大学学長)をお迎えし、文京区の東京ドームホテルにおいて、日本大学歯学部創設100周年記念式典・記念祝賀会が開催されました。

当日は、日本大学の役職者のほか、同僚大学の理事長、学長、歯学部長を始め、日本歯科医学会会長、歯科医師会関係者及び歯学部関係者等、総勢424名の御出席をいただき、格式高い趣の中、盛大に挙行されました。

午前11時からの式典は、前野正夫歯学部長の挨拶(p.1参照)に始まり、田中英壽理事長、大塚吉兵衛学長から祝辞を、日本私立歯科大学協会会長 井出吉信様から祝辞をいただきました。



田中英壽理事長は、これまで大学の発展に寄与されてこられた先人に対する感謝の意を語り、今後、高等教育を取り巻く環境が厳しさを増す中、大学一丸となって乗り越える決意を式辞として述べられました。

大塚吉兵衛学長は、日本大学の沿革及び歯学部の成り立ちについて語り、先人が築き上げた偉業を称え、それにより得た英知を基に、日本はもちろん、世界で活躍できる有能な若者を育成できるよう教育に力を入れていく旨を式辞として述べられました。

主賓の日本私立歯科大学協会会長 井出吉信様からは、本学部が多くの歯科医師、研究者及び教育者を輩出し、我が国における歯科医療の発展に大きく貢献していることを語られ、その功績を称える旨の祝辞をいただきました。



日本私立歯科大学協会
会長 井出吉信氏

続いて、第97代内閣総理大臣 安倍晋三 閣下らの祝電が披露され、最後は全員で日本大学校歌を斉唱しました。

午後0時15分から行われた記念祝賀会では、小幡純歯学部同窓会会長、横江順歯学部後援会会長、更に、日本大学理事で、衆議院議員の鴨下一郎先生から、心温まる祝辞をいただきました。

小幡純歯学部同窓会会長からは、「佐藤運雄先生の『和こそ同窓の亀鑑である』という考えを継承し、日本大学校友会、各学部校友会・同窓会と連携を取り、イメージネーションを広げながら歯学部のさらなる百年に向けて協力を惜しまない」との祝辞をいただきました。



小幡純歯学部同窓会会長



横江順歯学部後援会会長からは、「英知を結集、研鑽し、最高の水準の知の創造と活用を通じて、我が国と国際社会に貢献し、世界一の頂点を目指していただきたい」と期待を寄せる旨の祝辞をいただきました。

鴨下一郎衆議院議員からは、横江順歯学部後援会会長 「100年間、日本の歯科診療をリードしてきた歯学部にご敬意を表するとともに、これからも多くの優れた歯科医師を輩出し、地域のため、社会のために活躍して欲しい」との祝辞をいただきました。

続いて行われた鏡開きは、田中理事長、大塚学長、井出日本私立歯科大学協会会長、石井常務理事、加藤常務理事、成澤常務理事、古屋常務理事、中村常務理事、鴨下理事(衆議院議員)、小幡歯学部同窓会会長、横江歯学部後援会会長、前野歯学部長、平野事務局長にお力添えを賜り、会場の掛け声に合わせて、勢い良く鏡が開かれました。

祝宴は、平野晃事務局長の乾杯の発声により始まり、日本大学管弦楽団による生演奏の下に、明るく、和やかな雰囲気祝宴の時間を過ごしてまいりましたが、最後はなごり惜しまれながら閉会となりました。



祝賀会における鏡開き